

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身を育み、一人一人の個性を伸ばし、社会の変化に柔軟に対応し、社会に貢献できる人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グデュエーション・ポリシー (GP) ・主体的に多様な人と協働して学び、生きて働く知識・技能を身に付け、課題を発見し解決に取り組む生徒 ・心身の鍛磨を図り、個性を尊重し、奉仕の精神を養い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・社会の変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題に取り組み、地域社会の発展に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・生徒一人一人がキャリアデザインを具体的に描き、自己実現が図れるよう、各学科の特色ある教育活動を推進し、専門性を深化させるとともに、キャリア教育を推進 ・「主体的・対話的で深い学び」を推進し、知識・技能を習得させ、他者と協働しながら課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む態度を育成 ・基本的生活習慣の確立と自他の生命を尊重する態度を育て、生徒一人一人の個性を伸ばし、深い学びを実現するための社会に開かれた教育課程の編成と個に応じた指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・基本的生活習慣が身に付いており、向学心を持ち、学校行事、生徒会活動、部活動などの活動に積極的に参加し、多様な人と協働して学ぶことができる生徒 ・進路実現に向かって継続的に努力し、多様な学びや資格・検定、コンクールに主体的に取り組み、自らの可能性を拓く意欲のある生徒 ・部活動でスポーツ活動または文化活動で優れた能力を有し、入学後も継続して活動する意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇1年学年会	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科、生活デザイン科の生徒達は、テストの得点だけでなく、多方面から学習の評価をしているという結果が昨年度の数値よりも10%近く上がっている。また、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っていると感じている生徒・保護者の数が増えている。 生徒指導においては、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めていると感じている生徒・保護者は、昨年度よりも約10%増加している。 本校の取り組みに対して、ほとんどの項目で昨年度より肯定的な評価の割合が増えている。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇望ましい生活習慣を確立し、相手を思いやり、進んで奉仕する心を育て、地域社会に貢献できる知識と態度を身に付ける。 ◇家庭との連携を密にし、欠席や遅刻の防止を図る。 ◇課題に積極的に取り組み、自己の進路目標を具体化する。 ◇地域社会に貢献できる知識と態度を身に付ける。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会 ・生徒指導を始めとする各分掌との連携 ・総合学科長、生活デザイン科長との連携 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 出席状況の把握と保護者との密な連携 (2) 学年集会の実施 (3) 朝・帰りのSHR時の見回り	(1) 欠席・遅刻状況 (2) 生徒の意識、行動 (3) 進路目標を意識した系列・コース選択	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・安易な欠席や遅刻について、その都度指導を行うよう努めた。 ・欠席や遅刻を繰り返す生徒の状況確認を二者懇談・三者懇談・特別懇談等で進路選択と絡めて丁寧に行った。 ・学年集会の実施、学校行事を通じて生徒の目標達成への意欲的参加を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生活習慣の確立に向けて継続的な指導ができたか。 ②生徒の情報を共有し、家庭との連携を密にできたか。 ③進路目標を設定するための、組織的な対応ができたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
12 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導部や教育相談係から生徒情報を収集し、学年別会議や職員会議において情報を共有するとともに、保護者との連携を密にし、生徒理解に努めることができた。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響が若干あったが、進路関係の行事の在り方を工夫し、進路目標を考えるきっかけをつくることができた。 ▲毎日のSHR活動を通し、基本的生活習慣を確立する指導を行ったが、遅刻等の減少、身だしなみ等の規律遵守を徹底することができなかった。 	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様、家庭や生徒指導部との連携を密にし、情報を共有して生徒理解に努める。 ・望ましい生活習慣の確立を目指し引き続き学年集会の実施や学校行事での関わりを重視する。 ・コロナ禍においても、生徒が進路目標を設定し、実現していくための取り組みを工夫して行う。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 年 月 日

【意見・要望・評価等】
